

邇摩高校PTA広報

Yurinoki

高百合樹



第 29 号

平成 30 年 10 月 2 日
島根県立邇摩高等学校PTA

ユリノキ

本校が明治36年、大森に創設された際に植栽された由緒ある樹木である。創立100周年の記念樹としても採用された。

PTA会長あいさつ

坂根 勉



本年度PTA会長を務めさせていただいております坂根と申します。保護者の皆様方には、平素よりPTA活動にごご理解・ご協力頂きありがとうございます。

今年、4月に大田市を中心とした震度5強の地震、7月の平成30年7月豪雨では、江津市や邑智郡が浸水被害、その後の異常な「猛暑」と天災が最近頻繁に起きており、被害にあわれた方々、並びにご親戚等が被害にあわれた方々にお見舞い申し上げます。

この様な大きな地震が起きたことがない地域ですので、多くの皆様は驚きと恐怖だったと思います。この地震の被害のひどい地域は、日に日にブルーシートで覆われる家が増えてきて発生後4ヶ月過ぎた今でも元の生活に戻れない方もまだまだたくさんおられます。そこからの立ち直りが出来ないまま、7月豪雨となり、県内はもとより西日本一帯が水害や土砂崩れで大変な状況ですが、本校生徒や他校の高校生が地域で災害ボランティアとして、頑張ってくれているのを見聞きすると素晴らしい生徒たちだと、災害で暗くなった気持ちも晴れてきます。邇摩高校は、地域と共にあるということを感じさせてくれました。

また、先日 第70回全国高等学校PTA連合会大会島根大会「第1回準備委員

PTA副会長あいさつ

松村 英一



8月20日(月)・21日(火)、広めよう 高めよう 慈しむ心」をメインテーマに全国から9千人以上が参加され

佐賀県にて盛大に開催されました。今回の大会では佐賀県内6会場での分散型開催で、開会式・基調講演の後、各会場では分科会、記念講演が行われました。佐賀県大会には奥野先生と私が参加させていただき、奥野先生は鳥栖会場に参加され、私は佐賀市内の会場にて参加させていただきました。

私自身、邇摩高校について娘が入学するまでよくは知りませんでした。5系列を有する総合学科のため、生徒たちが自分の将来を見据えて専攻を選び学ぶことができるのは、子供達のやる気を奮い立たせてくれていると思います。また、小中学校における発達障がい児の割合が6.5%と高い割合を有しておりますが、邇摩高校では、煌めく羅針盤プログラムにて学習や生活に困難を示す生徒の支援をしているので、このプログラムの活用も邇摩高校の魅力の一つだと思います。この素晴らしい邇摩高校の更なる発展の為、保護者の皆様のご意見・ご協力をいただきPTA活動を進めて行きたいと思っております。宜しくお願いいたします。



基調講演(レモンさんのビタミントーク)レモンの被り物で活躍されているレモンさんこと山本シェウさんが、「慈しみの心 We are シンセキ」を合言葉に、時代は第二の明治維新真っ只中、時代は変わっている。昭和のチップを組み込まれた大人は変わらなければならぬ。現在の子どもたちの受け止め方は変わってきていると講演され、私自身考え方が昭和にとっぷり使っていると認識させられました。私の部活動時代では、水は飲むなバテるから、うさぎ跳びは普通にさせられていました。しごいて鍛える考え方でした。現在では、水はこまめに補給、本人が楽しんで技術を伸ばす考えに変わってきました。講演が進むにつれ、反省させられ、子どもたちは平成に生まれてきたのだと私たちもその時代に合った考え方を学んでいかな

ければと感じさせられました。

私が参加した分科会では、全国高P連
研究発表「AIとともに歩む未来」をテ
ーマに調査結果報告・基調講演・パネ
ルディスカッションと流れていきました。
今、テレビや新聞でよく目にするAI
の発達が職業の在り方を変えていく。講
演の中ではAIに変わる職業もあれば、
新しく生まれる職業もあるとお話しさ
れました。

日産自動車のゴーン社長が「今までの
50年の自動車というものがこれからの
10年で大きく変化する」と、これからの
社会も一緒だと思えます。子どもたちは
生まれてきた時からこの平成という社
会にも溶け込んでいます。私たち親も
変化をしていかなければいけないと感
じさせられた佐賀大会でした。

◆全国高等学校PTA連合会佐賀大会



校長あいさつ

三島 祐司



平素より本校の教
育活動に御理解と
御協力を賜り、誠に
ありがとうございます。

今年度は四月九日の大田地震から始
まり、六月の大阪地震、七月の西日本豪
雨、そして九月の北海道地震等、多くの
災害が発生した半年でした。改めて、自
然の脅威と人間の無力さを感じるとと
もに、命の尊さと当たり前に生活できる
有難さについて考えさせられました。

さて、一昨年度に大田市内県立高校支
援連携協議会が発足し、昨年度からは島
根県の魅力化事業に大田市にも手を挙
げていただき、学校と行政が一つのチー
ムとなった魅力化推進が本格的に動き
出しました。大田の豊富な地域資源を活
用し、地域と連携した魅力化事業を行う
ことで、高校にも地域にも活力をもたら
す目的で行われている事業です。

その魅力化として、今年度は「総合学
科としての魅力」を前面に打ち出してい
ます。総合学科は、普通高校と専門高校
の良い部分を取り入れた第三の学科と
して、平成六年度から全国に設置されま
した。本校は平成七年度に島根県初の単
独総合学科高校として生まれ変わら
ましたが、総合学科として二十数年経過し
ているにも関わらず、地域の方や中学校
関係者およびその保護者に、ほとんど御

理解いただいていないのが現状です。自
分をしっかり見つめ、本当にやりたい
ことは何かをじっくりと考え、自分の生
き方を主体的に学ぶために、総合学科は
最適な学科です。そして、本校の総合学
科独自の体験学習をメインにした学び
とキャリア教育は、他の高校の一步先を
歩んでいることは、校長として自信を持
つて言えます。

今後も、地域活性の一翼を担い地域社
会に貢献する人材を育成するという本
校の使命を果たすべく、チーム瀬摩高と
して邁進する所存です。皆様方のさらな
る御支援と御協力をよろしくお願い申
し上げます。

一年生 保護者の声

PTA評議員 上野 剛

今年の春から長男が瀬摩高校に入學
し、親子ともども初めてな事ばかりで戸
惑いもありましたがやっとなり最近高校生
活に慣れてきました。

これから長い人生においてこの高校
三年間は貴重な時間でありしっかりと
大切にいろいろな事を学び経験をして
もらいたいです。

今はまだ未完成な目標、夢かもしれま
せんが地道に一步ずつ進み掴みとって
欲しいです。この貴重な三年間の中で学
んだ事を糧にして社会に羽ばたいても
らいたいです。

◆入学式の様子



宣誓
松井 杏有華さん

PTA評議員 金山 直樹

今年から瀧摩高校でお世話になることになりました。

一人息子と云うこともあり、何をすることも親子共々初めてで戸惑いながらも毎日を通してありますが、楽しく勉強、部活、友達と通っております。

高校の三年間は人生の中でも大事な時期だと思えます。勉強、部活、進路決め、友達、何をするにも全力で悔いの残らない高校生活を送ってもらいたいです。

将来の進路はだいたい決めている様ですが、この三年間を過ごす中で変わることもあるかもしれませんが色々考え、悩んで自分がどうしたいのか見極めていけたらと思います。

PTA評議員 野村 義行

今年の春から、娘が瀧摩高校でお世話になることになりました。新たな環境となり初めは色々戸惑うこともあったようですが、入学してから半年が過ぎ、高校生活にも徐々に慣れ高校生としての自覚が出てきたように感じます。これからの高校生活の三年間で、人間的にも大いに成長できる時期だと思えます。

夢に向かって努力したり、部活動を頑張ったり、そして同級生や友人と時間を過ごす中で、多くの人と関わり、色々な経験をjして成長してjってほしいです。

そして、将来、高校時代を思い起こしたときに、良い高校生活を送れたと思えるように、失敗しても色々なことにチャレンジしてjって楽しい時期を過ごすjってほしいと思えます。

教職員の声

『プラス受信』でいきましよう！

教頭 黒崎 千春

以前、ある大手会社の入社試験の面接では、「あなたの人生は今までツイていましたか？」という質問に対し「ツイていました」と答えた人の中から採用したそうです。これは、「プラス受信」という発想つまり「あらゆる出来事をプラスに受け止める発想法」ができる人かどうか見ているのです。世の中の出来事は、どんな嫌なことでも、受け止め方によってはプラスに解釈することができるとです。すべての出来事は前向きに考えれば、チャンスとなり、後ろ向きに受け止めれば、ピンチとなります。どう受け止めたかが問題です。プラス受信には、コツが2つあります。1つは、「このことは自分にとってためになることだ」と考えること。2つ目は、「ピンチ自体を楽しんでしまうこと」です。プラス受信ができる人は、人に感謝できる。ストレスに対しても強い。問題が起こっても、前向きに解決しようとする人です。これから新しい出来事がたくさん待っている高校生には、『プラス受信』で過ごすjってほしいと思っております。

「雑感」

教務部長 見越 正勝

嘶家の落語に合わせて演技をする番組や落語の趣旨を解説する番組がある。一部で落語はやりだそうだが、そうだろ

うか。映像も要約も演出が入る以上、解釈である。もちろん嘶家にも演出はあるが、これは本質的に不可分である。さて、解釈は分かりやすさを信条とする。書店でも「わかりやすい」を冠した解説本をよく見かける。世の中は複雑化し、物事の大事な部分を見抜くことは容易ではない。

正体を見極めるためにはそのものに向き合わなくてはならない。解釈は他者の思考であり鵜呑みにはできない。その疑いすらなくさせる甘さを、昨今の「わかりやすさ」は漂わせる。目を背けて分かったつもりになっていると、やがて思いがけぬ事態に戸惑うことになる。きっと流行っているのは落語ではない。「わかりやすさ」なのだろう。

「勉強とは何ですか？」

1年学年主任 石崎 敏彦

北野武(ヒートタけし)を知らない人はいないと思えます。北野武さんの発した言葉の中に次のような言葉があります。「勉強するから何をしたいかわかる。」なるほどと感心させられた言葉でした。瀧摩高校で学んでいる生徒の皆さん、将来何をしたいかを語るjことができる生徒が何人いますか？学校では、「産業社会と人間」や「進路設計」、「銀の哲学」など、キャリア教育を充実させ、将来に向けての学習活動を実施しています。また、日々の授業など生徒の実態に合わせて行っています。皆さんはその学習活動

(勉強)に真剣に取り組んでいますか。勉強してjますか。してjないのに「将来は…まだ…」というのはどうでしょうか。勉強することは、今の自分がjできることを知り、社会に出て羽ばたくために必要なことです。そういう私自身も今現在も勉強中です。生涯にわたり勉強してjかなければなりません。なぜなら、自分や社会で何をしたいかを知らためです。瀧摩高校の皆さん、勉強をしてjきましょう。きっと自分にとってプラスになりますよ。

「自分を知る・発見する」

2年学年主任 伏井 真人

本校のホームページの進路情報の中に本校の3年間のキャリア教育についてまとめたものが掲載されています。1年生の目標は「自分」を見つめる。「知る」です。2年生は「自分」を「知る」「発見する」とあります。3年生は「自分」を「育てる」です。1年生と2年生で「自分」を「知る」が重複しています。こんな人になりたい！こんな人生を過jしてみたい！など、未来の自分に夢を抱いている人は多いと思えます。しかし、その夢を実現させるためには「自分」を「知る」ことがとても重要になります。人間には、常習化した日常性におこなっている、ものの見方、捉え方、考え方などがあります。これが原因で、うまくいかない場合が多いのです。そこで、自分の考え方のクセを知ると、うまくいかなかった原因がはつきりとしてきます。①マ

イナスを生み出している行動や言動②パフォーマンスを下げている心理的要素や行動③あなたの思考や行動を止めている無意識のパターンなどなど。このように無意識でおこなっている自分のクセを「知り」、手放す努力をすれば結果は必ずついてきます。

高校生の皆さんはある程度のクセがついてきていますが、変えることも十分可能な年齢です。そして何より、まだ発見していない自分の可能性を広げることができなのです。

2年生は「自分」を「知り」「発見する」学年です。羅針盤を片手に自分探しの旅に漕ぎ出してみよう。

体育祭分団長コメント

「感謝」

青軍 三年一組 木下 正祥

こんにちは。青軍分団長の木下正祥です。当日に応援に来てくださった保護者の皆様、そして教員の皆様ありがとうございました。

我ら三年生は八月下旬から準備を始め短い期間でしたが力を合わせなんとか間に合うことができました。私は、初めは軍をまとめられるか不安でしたが、一、二年の皆がしっかりと指示を聞いてくれ、とてもスムーズに行うことができました。また、同級生もやるべきことをこなし責任感をもってやってくれました。応援一位、衣装一位、デコ二位という好成绩でとてもうれしく思います。競

技の部で一位になれたのは、一、二年生のおかげです。一、二年生は私のHEROであり一人一人が主役だと思えました。二年生には、来年頑張ってもらいたい。私は縁の下の力持ちではなく、木下は力持ちです。

「うちならいけたっしょ」

紫軍 三年二組 坂根 七海

こんにちは。紫軍分団長の坂根七海です。今年の紫軍のテーマは、LOVE♡勝つ☆スキうちらならいけるっしょです。このテーマで夏休みの終わりから準備を始め、とても短い期間でしたが、三年生皆で協力して頑張りました。一、二年生にいざ教えてみるとどう説明しているかわからない時もありましたが、三年生が支えてくれたし、一、二年生もついてきてくれてとてもうれしかったです。本番ではどの組よりも応援も競技も楽しくできましたし、衣装もデコも私の中では一番でした。結果はオール二位でしたが、とても良い思い出です。

頼りない分団長でしたが、紫軍の分団長で良かったなと思っています。ついてきてくれた一、二年生、支えてくれた三年生本当にありがとうございました。大好きです。

「最後の体育祭」

赤軍 三年二組 永岡 龍之介

赤軍分団長の永岡龍之介です。夏休みの終わりから準備を始め、短い期間でしたが三年生の皆で協力して頑

張りました。

夏休みが明けてからは、一、二年生たちにダンスを教えている中で上手く教えることができず、一、二年生も戸惑っていました。みんな頑張ってくれました。なんとか本番に間に合うことができました。結果としては、入場行進の部一位、デコレーションの部一位でした。目指していた総合優勝はできませんでしたが、みんなが笑顔で体育祭を終えることができましたのでとても良かったです。

自分は団長として皆を上手くまとめることはできませんでしたが、三年生は中心となり、一、二年生もしっかりついてきてくれて楽しい体育祭にすることができました。一、二年生、三年三組のみんなありがとう。

